

ごあいさつ

前川 泰則

昨年10月に准教授から異動しました前川です。誠に僭越ではございますが、貴重な機会を頂きましたので、この場をお借りして自己紹介させていただきたく存じます。

私は2004年3月に京都大学の総合人間学部を卒業いたしました。皆様もご存知かと思いますが、総合人間学部は吉田南キャンパスにあります。そのため、学生の頃は今出川通りを隔てた北部キャンパスに足を運ぶ機会は数えるほどしかありませんでした。実際、学生時の北部キャンパスとの関わりについて記憶しているのは、数学図書室に本を借りに来たことくらいです。確か放物型偏微分方程式の最大正則性評価に関する洋書だったと思います。趣のある数学教室の建物に入ることに緊張しながら貸出手続きをしたことを覚えています。その頃は、よもや自分がこうした職につくことになるとは夢にも思っておりませんでした。

京大卒業後は北海道大学理学研究科に入学し、修士号と博士号を取得しました。その後、九州大学、神戸大学、東北大学と異動を繰り返して2016年に京都大学数学教室に准教授として着任いたしました。今に至ることができたのも多くの先生や先輩、友人から叱咤激励をいただいた御蔭であると深く感謝しております。私の専門分野は偏微分方程式論で、特に流体力学の基礎方程式を専門にしています。学部4年生のときに流体方程式の数学解析に関する図書をセミナーで読んだことが私にとって源流となっています。初めから流体方程式に関わる本を読もうと意図していたわけではなく偶然の経緯なのですが、それが縁というものなのかもしれません。今振り返ると小学生の頃、新聞の天気図を切り抜きしてノートに貼り天気と気温を日々記録するという、意味がありそうで無いような作業を趣味で数年間続けていたので、予兆はあったのだなと思います。流体の偏微分方程式は古くから研究されていますが、その数学解析は今なお日進月歩で発展しています。現象論としては100年以上前に知られていたけれども、数学的に厳密な証明が得られたのはごく最近であったり、あるいはまだ手がつきそうにないものだったり、その奥深さに魅了されています。少しでもこの分野に研究教育の両面で貢献していければと思っています。

今年は様々なレベルで新型コロナ肺炎が社会に大きな影響を与えています。私自身はというと、教室運営等で先輩の教授の方々の背中を追っているだけの状況です。自分の未熟さを痛感する日々ですが、この経験を糧にして今後の数学教室の発展に寄与できるように精進してまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。